琉球大学「沖縄産業論」× GFP沖縄
2024年10月9日

開催概要

日程・会場

- 2024年10月9日（水）16:20 ～ 17:50
- 琉球大学 国際地域創造学部

目的

- 次世代の農林水産物・食品の輸出担い手の育成・確保を目的に、学生向けに輸出の販売状況や仕事の内容を講義

構成

- 挨拶　農林水産物・食品の輸出促進について（沖縄総合事務局食料産業課 長濱）
- 農林水産物・食品の輸出～世界で活躍する沖縄産品～（GFP沖縄事務局 株式会社Aglin 吉満）
  - 海外輸出が国策？
  - 海外で日本食はどう食べられている？
    - 沖縄県産品の輸出事例
    - イギリスでの日本食普及実態（イギリス中継：GFP沖縄事務局(株式会社Aglin) 小野寺）
  - 日本食はどのような人が関わり、海外に運ばれている？
    - 日本食の輸出に関わる人・仕事
    - 輸出までの流れ
  - 学生視点で日本の食に貢献できること
    - ベンチャーで活躍している学生
    - 食×他産業のコラボレーション

対象者

- 1～２年次（約160名）

Copyright© 2024 PRODUCTS PLANNING,INC. Aglin、INC All rights reserved.

質疑応答

- 現地でも沖縄産品を使った料理があると思うが、原料が沖縄産か現地産かでどのように味が変わるのか
  - ➢ 現地調達品も質が高く、ほぼ日本産と変わらないレベルであるのに価格が低い。特に日本産品として付加価値が付きやすいものは果物・エビ類であり、鮮度や大きさが他にはない差別化ポイントとなっている。
- 海外輸出支援に関して、海外と関わる楽しさや日本との相違点を教えていただきたい
  - ➢ 各国への日本食の普及具合に驚かされる。現地食と日本食が融合したメニューは新たな観点として面白く感じる。
- 日本酒缶は使いやすく、ぜひ国内外でも普及していただきたい
- 沖縄での商売は不利だと思っていたが、輸出においては東南アジアが近く地理的に適していると理解した





Copyright© 2024 PRODUCTS PLANNING,INC. Aglin、INC All rights reserved.

その他（授業の様子）









Copyright© 2024 PRODUCTS PLANNING,INC. Aglin、INC All rights reserved.

授業の感想

1社単独での海外プロモーションには限界があり、オールジャパンや県単位でのプロモーション実施を期待する声が聞かれる。



- 沖縄にもインバウンドによる観光業以外にも強みが活かせる産業があると認識する事ができた
- まず自分自身が沖縄県産品について知ることが大事だと思った



- 沖縄の産品の輸出について、実際に現地で輸出されている食の種類や値段を初めて知ることができた。また、沖縄で行われている輸出の事例やメリットからも輸出の価値について学ぶことができた。



- 生まれも育ちも沖縄だが、輸出されている品目も輸出量も知らなかったので、今回の講義で沖縄の強みを知ることができて良かった。
- 他県と違う沖縄の食材について知識を深めたい



- 沖縄には多くの農業者や漁業者がいて、農産物は豊富だが、それを効果的に売れてないことに課題があると思った。その際に、生産者とバイヤーを繋ぐGFPのプロジェクトがあることはとても良いビジネスの構築になると感じた。



- 沖縄県産品の海外への輸出がこんなにも多くのプロセスと人に支えられて成し遂げられていることがわかった
- 海外の状況を知るために海外のスーパーマーケットを調査し沖縄の物があるのか目で見てみたい



- 意外にもブランドとして輸出している物があり、官民で販路拡大に熱心に取り組んでいる様子を学んだ。
- ネットや留学等で知り合った、海外にいる友達に県産品をプレゼントして口コミを広げたい

Copyright© 2024 PRODUCTS PLANNING,INC. Aglin、INC All rights reserved.